

幼児のための社会性と情動の学習プログラム (SEL-8N) の試案構成

Curriculum of a Pilot Program of Social and Emotional Learning
at the Nursery School (SEL-8N)

山田 洋平

小泉 令三

Yohei YAMADA
(福岡教育大学)

Reizo KOIZUMI
(教職実践講座)

(平成25年9月30日受理)

本論では、幼児の社会性育成を目指したSEL-8N学習プログラムの試案構成を提案した。その結果、小中学生を対象としたSEL-8S学習プログラムを元に設定した8つの学習領域を2段階に分け、全26の学習ユニットでの構成を立案した。保育所・幼稚園でのニーズの高いスキルや感情の発達を考慮し、学習ユニットの設定を行った。今後の課題と展望として、学習ユニットの指導案作成、実施方法の工夫、効果検証の検討などを挙げた。

キーワード：社会性と情動の学習、幼児、社会的能力、試案構成

幼児期における社会性育成

近年、学校現場では、いじめや不登校、暴力行為など生徒指導上の課題への予防・開発的な取組として、子どもの社会性を育てるための心理教育プログラムが導入・実施されている。日本では、小中学校を中心に社会的スキル教育、アサーション・トレーニング、ストレスマネジメント教育などが実践され、その効果が報告されている(藤枝・相川, 1999など)。これらは、総称して社会性と情動の学習(Social and Emotional Learning, 以下SELとする)と呼ばれている。SELは、「子どもや大人が、社会性と情動の能力を獲得するために必要なスキル、態度、価値観を発達させる過程」(Elias, Zins, Weissberg, Frey, Greenberg, Haynes, Kessler, Schwab-Stone, & Shriver, 1997)と定義される。現在、アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど数多くの国で実践・導入されている。日本では、小泉(2011)によって、SEL概念に大きく依拠したSEL-8S(Social and

Emotional Learning of 8 Abilities at the School)と呼ばれる心理教育プログラムが開発されている。

SEL-8S学習プログラムは、自己への気づき、他者への気づき、自己のコントロール、対人関係、責任ある意思決定の5つの基礎的な社会的能力と、生活上の問題防止のスキル、人生の重要事態に対処する能力、積極的・貢献的な奉仕活動の3つの応用的な社会的能力の育成をねらいとしている。現在、小中学校においてSEL-8S学習プログラムの実践がなされ、その効果が報告されている(香川・小泉, 2006; 田中・小泉, 2007; 宮原・小泉, 2009; 中山・小泉, 2010; 堤・小泉, 2011など)。

以上のように、小中学校段階における社会性育成の実践によって、子どもの仲間関係を改善する試みが数多く行われている。しかし、小学校中学年以降になると、周りからの評判の偏りや徒党の形成が顕著になり、新たに仲間集団に加わって、仲間からの社会的受容を得ることが少しずつ困

難になることが報告されており (Mize & Ladd, 1990), できるだけ早い時期での対人行動の改善の必要性が指摘されている。さらに, 佐藤・佐藤・岡安 (1998) は, a) 幼児期に仲間関係のつまづきがあると児童期まで持ち越されやすいこと, b) 保育所や幼稚園では, 社会性の発達を重視したカリキュラム構成となっているため, 社会性を育成する取組が日常の保育活動に取り入れやすいことなどから, 幼児期における社会性育成の重要性を述べている。

幼児期における社会性の育成を目指した実践研究は, これまでにも行われてきた。これらの先行研究を概観すると, 引っ込み思案で孤立傾向にある幼児 (佐藤・佐藤・高山, 1993; 前田・石川, 1995 など) や攻撃的な幼児, LD や自閉症などの発達のリスクをもつ幼児 (佐藤, 1993; 野口・佐藤, 2004; 野口・佐藤, 2008; 山本・香美・田村・東川・井澤, 2012) を対象とした, 個別あるいは小集団による社会的スキル教育の実践的研究が多い。一方で, 予防・開発的な観点から全ての幼児に対する集団社会的スキル教育についての研究は, 近年ようやく行われるようになってきた (鈴木, 1996; 金山・日高・西本・渡辺・佐藤・佐藤, 2000; 仲江, 2000; 佐藤・日高・後藤・渡辺, 2000; 立元・中原・郡司・高松・横山・青, 2003; 大友, 2007; 田代・岡村, 2011)。この他, 「セカンドステップ (Second Step)」と呼ばれる SEL プログラムの実践も報告されている。セカンドステップとは, アメリカで開発された「攻撃性を減少させ社会適応能力を促進させるための総合的な防止プログラム」(馬場, 2004) である。幼児 (未就学児) を対象とした「セカンドステップコース 1」は, 相互の理解, 問題の解決, 怒りの対処の 3 章 (全 28 回) で構成され, 4 歳から 8 歳を対象に週に 1 回 (約 30 ~ 40 分) の頻度で実施されている。日本では, 幼稚園で行った佐藤 (2006) による実践がみられる。

このように, 日本における幼児期の社会性育成の取組は, 個別あるいは小集団による実践が中心であった。また, 集団による実践はまだ少ない。集団に対する実践を概観すると, 「仲間の入り方」や「あたたかい言葉かけ」といった適切な働きかけに関するスキル (鈴木, 1996 など) と, 「上手な聞き方」などの適切な応答に関するスキル (金山他, 2000 など) が多く扱われていた。しかし, SEL-8S 学習プログラムのように社会的能力を包括的に扱ったプログラムは見当たらない。そこで本研究では, 小中学生を対象とした SEL-8S

学習プログラムの枠組みを元に, 社会的能力を包括的に扱う幼児に対する Social and Emotional Learning at the Nursery School (以下, SEL-8N とする) の開発に向けた試案構成を提案する。

学習領域と学習ユニットの説明

学習領域の構成 まず, SEL-8N 学習プログラムの実践対象は幼児であり, 具体的な年齢は 3 歳程度以上の未就学児に設定する。

次に, 8 つの社会的能力の説明については, SEL-8S 学習プログラムでの各社会的能力の説明を元にしながらも, 幼児期に合わせた変更を加えた。主な変更点として, 「生活上の問題防止のスキル」で挙げた“アルコール・タバコ・薬物乱用”や“性教育”といった具体的な問題場面を“誘拐”場面に変更した。また, 「人生の重要事態に対処する能力」で挙げた環境移行場面を“中学校・高校進学”から“小学校進学”に変更した。さらに, 「積極的・貢献的な奉仕活動」においては, ボランティア活動の場を“学級内, 異学年間, 地域”から“保育所・幼稚園内, 家庭内”に変更した。

学習領域については, 小中学生を対象とした SEL-8S 学習プログラムに従って, 8 つの社会的能力の 1 つあるいは複数を取り上げる 8 つの学習領域を構成する。具体的には, A「基本的生活習慣」, B「他者への気づき, 聞く」, C「伝える」, D「関係づくり (遊び)」, E「自己への気づき, ストレスマネジメント」, F「問題防止」, G「環境移行への対処」, H「ボランティア」の 8 つである。その内, SEL-8N 学習プログラムにおける変更点を述べる。

まず, SEL-8S 学習プログラムでは, 学習領域 E は「ストレスマネジメント」であった。しかし, 幼児においては, E「ストレスマネジメント」での“ストレス認知”という内容の理解 (ストレスという語句の理解など) が困難であると考えた。変更においては, “ストレス認知”が自己の感情に気づくことと概ね等しいことから, “自己の感情理解”を扱うこととした。そこで, 学習領域 E を「自己への気づき, ストレスマネジメント」に変更した。それに伴い, 学習領域 B が「他者への気づき, 聞く」となった。

次に, SEL-8S 学習プログラムにおいて, 学習領域 D は「対人関係」であった。幼児期の対人関係を考えると, 主な活動場面として遊び場面が想起された。そこで, SEL-8N 学習プログラムにおいては, 遊び場面に特化した対人関係を扱うこ

ととし、学習領域 D を「関係づくり (遊び)」に変更した。8つの学習領域の名称と8つの社会的能力との関係を Table 1 に示す。

学習ユニットの構成 次に、学習ユニット (1回の授業) の構成を考える。まず、各学習領域に2段階の区分 (ステップ1, ステップ2) を設ける。ステップ1は、保育所や幼稚園で生活する上での基礎的な事柄 (例えば、あいさつをする、話を聞く、手洗い・うがいをする) について取り上げている。一方、ステップ2では、ステップ1を少し深めて、友だちとさらに関わる上での事柄 (例えば、感謝を伝える、友だちの良いところを見つける、一緒に遊ぶ) について取り上げている。なお、幼児は発達の個人差が大きいので、これらのステップの違いは、年齢や学年に対応するものではない。指導にあたっては、実施者自身が子どもの実態に応じたステップの選択を行うものとする。

学習領域およびステップごとの学習ユニットの数については、基礎的な社会的能力を主なねらいとする学習領域 A～E では、ステップごとに2つの学習ユニットを設定し、応用的な社会的能力を主なねらいとする学習領域 F～H では、ステップごとに1つの学習ユニットを設定した。学習領域ごとの学習ユニットの説明については、Table 2～9 に示す通りである。

各学習ユニットの設定背景 Table 2～9 に示す各学習ユニットの設定において、良く扱われる内容について、以下の先行研究を考慮した。

まず、金山・中台・前田 (2004) では、一般市民を対象に、社会的スキル教育において保育所・幼稚園で取り扱って欲しいスキルについて調査している。その結果、保育所・幼稚園で取り扱ってほしいスキルの上位3項目は、「上手なあいさつ」、「上手に相手の話を聞く」、「仲間に入れてもらう」であった。また、この研究では、就学前段階において基礎的な能力に対するニーズが高いことが示唆されている。そこで、SEL-8N 学習プログラムにおいても、上位3項目を学習ユニットに含める (A1「おはよう」、A3「ありがとう」、B2「話を聞く」、D1「入れて!」) とともに、基礎的な能力を中心に学習ユニットを構成することを心掛けた。

次に、感情理解の発達について説明する。幼児期は、家族から離れて同年代の子どもと集団生活を行う中で、対人関係の広がりを見せる時期である。このかわりを通して、喜びや怒り、悲しみなどの様々な感情を体験すると同時に、他者の感情理解や自己の感情調整といった感情機能

が発達する。とりわけ、他者の感情理解は対人関係において重要な機能であることが示されている (Edward, Manstead, & McDonald, 1984; Greenberg & Kusche, 1993; 伊藤, 1997; 戸田, 2003)。

表情を手掛かりとした他者の感情理解については、3歳までに他者が表出した感情に対して詳細なラベルづけができるようになると言われている (板倉, 2007)。特に、喜び感情の理解は早く、悲しみや怒りといったネガティブな感情は就学前にかけて徐々に理解できるようになる。また、誇り、恥、罪悪感といった高次の感情は、ほとんどの子どもが小学校中学年になるまでラベルづけすることができないことが示されている (Boone & Cunningham, 1998)。

その他、状況を手掛かりとした他者の感情理解は、小学校入学前後の時期に急速な発達を遂げる (板倉, 2007)。具体的には、3歳までには楽しい状況を理解できるが、ネガティブな感情は4歳以降になると言われている。

これらのことから、他者の感情理解については、表情による感情理解の発達が、状況による感情理解よりも早いことが示唆される。本研究では、学習領域 B「他者への気づき、聞く」において、表情を手掛かりとする他者の感情理解 (B1「この顔どんな気持ち?」) をステップ1に、状況を手掛かりとする他者の感情理解 (B3「この場面どんな気持ち?」) をステップ2にそれぞれ配置した。

幼稚園教育要領との関連

最後に、SEL-8N 学習プログラムと幼稚園教育要領 (文部科学省, 2008) (以下、教育要領とする) との関連について述べる。Table 10 に、教育要領に記載されている領域ごとの内容とそれに対応する SEL-8N 学習プログラムの学習領域を示す。なお、保育所での保育の内容を定めた保育所保育指針 (厚生労働省, 2008) では、保育の内容を養護と教育に分類している。その内、教育に関わる内容については、教育要領と同じ5領域が設定され、その内容も教育要領とはほぼ一致するものであった。そのため、SEL-8N 学習プログラムと保育所保育指針との関連についての説明は省略する。

SEL-8N 学習プログラムと教育要領との関連を見ると、基礎的な社会的能力の育成を主なねらいとする学習領域 A～E は、教育要領との関連が

強い。一方、応用的な社会的能力の育成を主なねらいとする学習領域 F～H においては、「危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。(健康領域の内容(10))」と SEL-8N 学習プログラムの学習領域 F「生活上の問題防止のスキル」や「高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。(人間関係領域の内容(13))」と SEL-8N 学習プログラムの学習領域 H「ボランティア」などとの関連がみられる。なお、SEL-8N 学習プログラムの学習領域 G「環境移行への対処」は、教育要領の各領域の内容において関連する項目は見当たらないが、教育要領の中では、「幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培う」ことの重要性が指摘されている。このことは、幼稚園から小学校への移行を見越した教育活動が、幼稚園教育で行われることを示唆しており、学習領域 G「環境移行への対処」との関連が示される。

また、教育要領の「環境」領域については、身近な自然や環境とのふれあいが主なねらいであるため、ほとんどが SEL-8N 学習プログラムと関連のない領域であった。そのため、SEL-8N 学習プログラムは教育要領の示す全領域を包括するものではないことが分かる。

以上のことから、SEL-8N 学習プログラムの構成は教育要領の内容に深く関連があることが示された。

今後の課題と展望

本研究では、幼児のための SEL-8N 学習プログラムの試案構成を行った。今後は本研究で立案した学習ユニットの具体的な指導案を作成する必要がある。現試案段階では、各学習ユニットは幼児が集中して取り組める時間を考慮し、20分程度の実施時間を想定している。また、教材としては、紙芝居または絵本の様式を用いることを考えている。

次に、SEL-8N 学習プログラムの実施方法についての検討である。先述の通り、SEL-8N 学習プログラムは教育要領と深い関連があるため、幼稚園教育での実施は可能であろう。ただし、これまでの心理教育プログラムにおいては、学習ユニットを実施するだけでなく、学習ユニットの指導場面以外での訓練(指導)の重要性が指摘されて

いる。幼児を対象とした小集団による社会的スキル教育における先行研究では、自由遊び場面や自然場面でのスキル訓練を導入することで、訓練効果を促進することが確かめられている(佐藤他, 1998; 金山他, 2000)。そして、佐藤他(2000)は、自由遊び場面でのスキル訓練を、集団社会的スキル教育においても、訓練要素として取り入れるべきであると提案している。SEL-8N 学習プログラムの実施においても、学習ユニットを用いた指導の後に、自由遊び場面や自然場面での訓練を導入することが、学習した社会的能力の定着や般化を促進するポイントになると考えられるため、実施方法に工夫が必要である。

この他、SEL-8N 学習プログラム実践による効果検証の方法の検討が必要である。これまで小中学生を対象とした実践の効果検証においては、児童生徒自身の自己評定が用いられていた。しかし、幼児期においては、幼児自身の自己評定を行うことは難しい。現試案段階においては、先行研究等に倣って、教師による他者評定、行動観察による評定、ソシオメトリックテストによる評定などを考えているが、それ以外の有効な方法についても検討していきたい。

引用文献

- 馬場寧子(2004). きれる子を失くす為に—アメリカのプログラム・セカンドステップの実践—教育学研究(明星大学大学院人文学研究科教育学専攻通信課程), 4, 57-65.
- Boone, R.T. & Cuninghame, J.G. (1998). Children's decoding of emotion in expressive body movement: The development of cue attunement. *Developmental Psychology*, 34, 1007-1016.
- Edwards, R., Manstead, A., & MacDonald, C. (1984). The relationship between children's sociometric status and ability to recognize facial expressions of emotion. *European Journal of Social Psychology*, 14, 235-238.
- Elias, M.J., Zins, J.E., Weissberg, R.P., Frey, K., Greenberg, M.T., Haynes, N.M., Kessler, R., Schwab-Stone, M.E., & Shriver, T.P. (1997). Promoting social and emotional learning: Guidelines for educators. Association for Supervision and Curriculum Development. (イライアス M.J.・ジンズ J.E.・ワイスバーク R.P.・フレイ K.・グリーンバーク M.T.・ハynes N.M.・ケスラー R.・シュワーブストーン M.E.・シュラ

- イバー T.P・小泉令三 (翻訳) 1999 社会性と感情の教育—教育者のためのガイドライン 39—北大路書房
- 藤枝静暁・相川充 (1999). 学級単位による社会的スキル訓練の試み 東京学芸大学紀要第1部門, 50, 13-22
- Greenberg,M.T., & Kusche,C.A. (1993). *Promoting social and emotional development in deaf children: The PATHS project*. Seattle, WA: University of Wasngington Press.
- 板倉昭二 (2007). 乳幼児における感情の発達 藤田和生 (編) 感情科学 東京大学学術出版会 113-141.
- 伊藤順子 (1997). 幼児の向社会的行動における他者の感情解釈の役割 発達心理学研究, 8, 111-120.
- 香川雅博・小泉令三 (2006). 小学校中学年における社会性と情動の学習 (SEL) プログラムの試行 福岡教育大学紀要, 55(4), 147-156.
- 金山元春・日高瞳・西本史子・渡辺朋子・佐藤正二・佐藤容子 (2000). 幼児に対する集団社会的スキル訓練の効果—自然場面におけるコーチングの適用と訓練の般化性— カウンセリング研究, 33, 196-204.
- 金山元春・中台佐喜子・前田健一 (2004). 一般市民の社会的スキル教育に対する認識と評価 広島大学心理学研究, 4, 89-96.
- 小泉令三 (2011). 社会性と情動の学習 (SEL-8S) の導入と実践 ミネルヴァ書房
- 厚生労働省 (2008). 保育所保育指針—平成 20 年告示— フレーベル館
- 前田健一・石川奈緒美 (1995). 仲間遊びが持続しない幼児の社会的スキル訓練研究 愛媛大学教育学部紀要 教育科学, 41, 39-53.
- 宮原紀子・小泉令三 (2009). 中学校の学校行事と関連づけた社会性と対人関係能力の向上—社会性と情動の学習 (SEL) プログラムの活用による試行的実践— 教育実践研究 (福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター), 17, 143-150.
- Mize,J. & Ladd,G.W. (1990). Toward the development of successful social skills training for preschool children. In S.R.Asher & J.D.Coie (Eds.), *Peer rejection in childhood*. Cambridge University Press, 338-361.
- 文部科学省 (2008). 幼稚園教育要領—平成 20 年告示— 教育出版
- 仲江真奈 (2000). 保育場面における行動モデルの提示が幼児の社会的スキルの変化に及ぼす効果 人間文化研究年報 (お茶の水女子大学大学院人間文化研究科), 24, 128-135.
- 中山和彦・小泉令三 (2010). 児童の規範意識を高め, 規範的な行動を促す単元構成の工夫—心理教育プログラム SEL を活用した総合単元プランを通して— 教育実践研究 (福岡教育大学教育学部附属教育実践総合センター), 18, 143-150.
- 野口美幸・佐藤容子 (2004). 発達的リスクをもつ幼児に対するソーシャルスキルトレーニング LD 研究, 13, 163-171.
- 野口美幸・佐藤容子 (2008). LD 幼児に対する社会的スキル訓練と注意の訓練—社会的行動の改善と off-task 行動の低減— 宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター研究紀要, 16, 89-101.
- 大友貴美子 (2007). 幼児に対する集団的ソーシャル・スキル・トレーニングの効果について—引っ込み思案幼児への適用効果の検討— 発達教育学研究 (京都女子大学), 1, 29-46.
- 佐藤秋子 (2006). 幼稚園における「セカンドステップ」トレーニングの効果に関する実験的検討—共感性及び幼児の顔の表情理解との関連— 国学院大学栃木短期大学紀要, 41, 1-23.
- 佐藤正二・日高瞳・後藤吉道・渡辺朋子 (2000). 幼児に対する集団社会的スキル指導の効果 宮崎大学教育文化学部附属教育実践研究指導センター研究紀要, 7, 63-72.
- 佐藤正二・佐藤容子・岡安孝弘 (1998). 保育所における幼児の対人行動訓練の実践的研究—社会的スキル指導マニュアルの開発— 平成 9 年度受託研究・研究成果報告書
- 佐藤正二・佐藤容子・高山巖 (1993). 引っ込み思案幼児の社会的スキル訓練—コーチング法の適用とその維持効果— 宮崎大学教育学部紀要 教育科学, 75, 13-26.
- 佐藤容子 (1993). 自閉症の幼児に対する社会的スキル訓練—直接強化法と仲間媒介法の組み合わせ— 宮崎大学教育学部紀要 教育科学, 75, 27-34.
- 鈴木順和 (1996). 幼児の社会性の発達に関する研究 (Ⅱ)—社会的スキル訓練の効果— 宮崎女子短期大学紀要, 22, 37-44.
- 田中展史・小泉令三 (2007). 社会性と情動の学 (SEL) プログラムの強化・般化に関する試行的実践—教科等との関連づけ, 目標の個別化, 保護者との連携を通して— 福岡教育大学心

理教育相談研究, 11, 73-81.
 立元真・中原久代・郡司まり子・高橋まゆみ・横山登・青猷二 (2003). 幼稚園と小学校高学年の交流活動において, 幼児に社会的スキル指導を行った教育実践研究 宮崎大学教育文化学部附属教育実践総合センター研究紀要, 10, 91-100.
 田代祥子・岡村寿代 (2011). 幼児に対する集団ソーシャルスキルトレーニングの効果—スキルの知識習得と実行程度の個人差に着目した研究— 発達心理臨床研究 (兵庫教育大学発達心理臨床研究センター), 17, 43-51.

戸田須恵子 (2003). 幼児の他者感情理解と向社会的行動との関係について 釧路論集—北海道教育大学釧路校研究紀要—, 35, 95-105.
 堤さゆり・小泉令三 (2011). ボランティア学習と心理教育プログラム (SEL-8S) の組合せによる児童の自己有用感と社会性の向上 日本学校心理士会年報, 4, 63-72.
 山本真也・香美裕子・田村有佳梨・東川博昭・井澤信三 (2012). 発達障害の疑われる幼稚園児に対する就学支援プログラムの効果の検討 特殊教育学研究, 50, 65-74.

Table 1 SEL-8N 学習プログラムでねらいとする 8つの社会的能力と学習領域との関係

学習領域 社会的能力		A	B	C	D	E	F	G	H
		基本的 生活習慣	他者 への 気づき, 聞く	伝 える	関 係 づ く り (遊 び)	自 己 へ の 気 づ き, ス ト レ ス マ ネ ジ メ ン ト	問 題 防 止	環 境 変 化 へ の 対 処	ボ ラ ン テ ィ ア
基礎的な 社会的 能力	a. 自己への気づき (self-awareness) 自分の感情に気づき, また自己の能力について現実的で根拠のある評価をする力	○		○		○			
	b. 他者への気づき (social awareness) 他者の立場について考え, 他者の感情を理解しようとするとともに, 多様な人がいることを認め, 良好な関係をもつことができる力		○						
	c. 自己のコントロール (self-management) 物事を適切に処理できるように情動をコントロールし, 挫折や失敗を乗り越え, また妥協による一時的な満足にとどまることなく, 目標を達成できるように一生懸命取り組む力				○	○			
	d. 対人関係 (relationship skills) 周囲の人との関係において情動を効果的に処理し, 協力的で, 必要ならば援助を得られるような健全で価値のある関係を築き, 維持する力		○	○	○			○	○
	e. 責任ある意思決定 (responsible decision making) 関連する全ての要因と, いろいろな選択肢を選んだ場合に予想される結果を十分に考慮し, 意思決定を行う。その際に, 他者を尊重し, 自己の決定については責任をもつ力	○						○	
応用的な 社会的 能力	f. 生活上の問題防止のスキル (health-promotion and problem-prevention skills) 誘拐などの被害防止, 病気とけがの予防, 健全な家庭生活, 身体活動プログラムを取り入れた運動の習慣化, 暴力やけんかの回避, 精神衛生の促進などに必要なスキル						○		
	g. 人生の重要事態に対処する能力 (coping skills and social support for transitions and crises) 小学校進学への対処, 緊張緩和や葛藤解消の方法, 支援を求め方 (サポート源の知識, アクセス方法), 家族内の大きな問題 (例: 両親の離婚や別居) や死別への対処などに関するスキル							○	
	h. 積極的, 貢献的な奉仕活動 (positive, contributory service) ボランティア精神の保持と育成, ボランティア活動 (保育所・幼稚園内, 家庭内での活動) への意欲と実践								○
授業数 ステップ1 (合計13)		2	2	2	2	2	1	1	1
ステップ2 (合計13)		2	2	2	2	2	1	1	1

(注) ○は各学習領域において育成を図る主要な社会的能力を表す。

Table 2 学習領域 A「基本的生活習慣」の各学習ユニットの説明

	授業名	内容	重要な気づきやスキル
ステップ 1	A1 あいさつ 「おはよう」	登園や降園時に、教師・保育士や友だちとあいさつをすると自分も相手も気分が良くなることを知り、上手なあいさつのスキルを身につける。	・教師・保育士や友だちに会ったら、あいさつをする。 ・「あいさつのポイント」をおさえたあいさつをする。
	A2 整理整頓 「持ち物の片づけ」	自分の持ち物を所定の場所に片づけることの大切さを理解し、登園後すぐに自分の持ち物を片づけるようにする。	・片づけの意味を理解する。 ・(園で定めた) 持ち物の片づけ方を知り、自分の持ち物を自分で片づける。
ステップ 2	A3 あいさつ 「ありがとう」	様々な場面で感謝の気持ちを表すことの大切さを知り、「あいさつのポイント」に従って“ありがとう”が言えるようにする。	・感謝の気持ちを表すことの大切さを理解する。 ・「あいさつのポイント」をおさえて、“ありがとう”が言える。
	A4 食生活 「残さず食べよう お弁当」	食事の大切さ(栄養の補給、保護者や調理者への感謝)を知り、毎日の弁当(給食)で残さず食べられるように努力する。	・好きな食べ物と嫌いな食べ物を説明できる。 ・食事の大切さを理解する。 ・弁当(給食)を残さず食べられるように努力する。

Table 3 学習領域 B「他者への気づき、聞く」の各学習ユニットの説明

	授業名	内容	重要な気づきやスキル
ステップ 1	B1 感情理解 「この顔どんな気持ち？」	感情には、快感情「楽しい」と不快感情「悲しい」があることを理解する。そして、表情を見て、適切な感情を推測することができるようにする。	・快感情(楽しい)、不快感情(悲しい)についての言葉を知る。 ・表情を見て、適切な感情を推測することができるようになる。
	B2 聞く 「話を聞く」	教師・保育士や友だちの話を聞くことの大切さを知り、正しい聞き方で、人の話を最後まで聞けるようになる。	・話を聞くことの大切さを理解する。 ・聞き方のポイント(体向ける、相手の目を見る、最後まで聞く)を身につける。
ステップ 2	B3 感情理解 「この場面どんな気持ち？」	感情を表す様々な言葉(楽しい、悲しい、怒っている、イヤだ(嫌悪))を学ぶ。そして、しぐさや状況から、相手の感情を理解しようとする。また、同じ状況であっても、自分と他者では異なる感情を示すことに気づき、相手の気持ちを認めようとする。	・うれしい、悲しい、怒り、イヤだ(嫌悪)の言葉を知る。 ・しぐさや状況から相手の感情を理解しようとする。 ・同じ状況であっても、人によって感情が異なることを理解する。
	B4 他者理解 「友だちの好きなところ」	普段の生活場面を振り返り、友達の大切さに気づく。そして、友だちの好きなところや長所を見つけようとする。	・友だちの大切さについて理解する。 ・友だちの長所や好きなところを見つけようとする。

Table 4 学習領域 C「伝える」の各学習ユニットの説明

	授業名	内容	重要な気づきやスキル
ステップ 1	C1 感情伝達 「うれしい言葉とうれしくない言葉」	自分の感情を表す言葉には、快・不快感情があることを知り、それぞれの言葉で自分の感情を伝えることができるようにする。	・快感情と不快感情に含まれる言葉を知る。 ・自分の感情を言葉で伝えることができる。
	C2 意思伝達 「“はい”と“いいえ”」	自分の意思を示すには、「はい」と「いいえ」があることを知り、自分の意思を伝えることができるようにする。(非言語による表現(うなずく、首をふる)でも良いものとする。)	・「はい」と「いいえ」の表現方法を理解する。 ・自分の意思を伝えることができる。
ステップ 2	C3 感情伝達 「楽しい! 悲しい! 怒っているよ!」	自分の感情を相手に伝えることの大切さに気づく。そして、「伝え方のポイント」を学んで、ポイントに従った感情伝達ができるようにする。	・自分の感情を相手に伝えることの大切さに気づく。 ・感情の「伝え方のポイント」(私は、～[感情]です。)を使って、感情伝達しようとする。
	C4 意思伝達 「先生あのね」	何か困ったことがあった時には、周囲の人に相談することの大切さを理解する。そして、園で最も身近な大人である教師や保育士に自分の意思を伝えられるようにする。	・困ったことがあった時には、教師や保育士に相談することの大切さに気づく。 ・「伝え方のポイント」(私は、～[意思]～です。)を使って、教師や保育士に意思伝達しようとする。

Table 5 学習領域 D「関係づくり (遊び)」の各学習ユニットの説明

	授業名	内容	重要な気づきやスキル
ステップ 1	D1 関係開始 「入れて！」	遊びの場面で仲間に加わるときに重要な声のかけ方を理解し、「声のかけ方のポイント」を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・「声のかけ方のポイント」(はっきり、近づく)を理解する。 ・「声のかけ方のポイント」を使って、声かけができる。
	D2 自己制御 「仲良くしよう」	遊びの場面で意見が合わずにケンカをした経験を振り返って、落ち着いて行動することの重要性に気づく。そして、落ち着いて行動するための方法を学んで、使おうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて行動することの重要性に気づく。 ・落ち着く方法(深呼吸、数える)を使おうとする。
ステップ 2	D3 対人関係 「一緒に遊ぼうよ！」	遊びの場面で仲間に加われずに困っている友だちの感情を考える。そして、そうした友だちに声をかけて、仲間に入れてあげようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間に加われずに困っている友だちの感情を考える。 ・「声のかけ方のポイント」を使って、困っている友だちに声をかけようとする。
	D4 対人関係 「みんな同じ気持ち？」	同じ遊びをしていても、人によって感じている感情が異なることに気づき、相手の立場に立って物事を考えようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ状況であっても人によって感じる感情が異なることに気づく。 ・相手の立場に立って物事を考えようとする。

Table 6 学習領域 E「自己への気づき、ストレスマネジメント」の各学習ユニットの説明

	授業名	内容	重要な気づきやスキル
ステップ 1	E1 自己感情の理解 「うれしい気持ちと悲しい気持ち」	どんな時にうれしい感情や悲しい感情が起こるかを考える。そして、うれしい時と悲しい時の自分の身体的な特徴に気づこうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・うれしい時と悲しい時を説明することができる。 ・うれしい時と悲しい時の身体的な特徴に気づこうとする。
	E2 ストレス対処 「深呼吸」	イライラする時には、感情を落ち着かせることが大切であることを理解し、そのような時に深呼吸ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・イライラしている時に感情を落ち着かせることの大切さを知る。 ・感情を落ち着かせるための深呼吸の方法を身につける。
ステップ 2	E3 自己の感情理解 「不安な気持ち」	不安な時とそうでない(落ち着いている)時の自分の身体的な特徴に気づく。そして、感情によって身体的な違いがあることに気づくようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の不安な感情に気づくことができる。 ・感情ごとの身体的な違いに気づくようになる。
	E4 ストレス対処 「元気になる言葉」	不安になるような時は、気持ちを切り替えることが大切であることを知り、そのような時に元気になる言葉を考え、実際の場面で使おうとする意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを切り替える大切さを理解する。 ・不安な時に元気になる言葉を使う意欲を高める。

Table 7 学習領域 F「問題防止」の各学習ユニットの説明

	授業名	内容	重要な気づきやスキル
ステップ 1	F1 病気の予防 「手洗い、うがい」	病気にならないように、手洗い、うがいの大切さを理解し、家や教室などの屋内に入る時には、必ず手洗い、うがいができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・病気の予防のために、手洗い、うがいの大切さを知る。 ・屋内に入る時に正しい手洗い、うがいができる。
ステップ 2	F2 誘拐防止 「助けて！」	近所で遊んでいる時や歩いている時に、誘拐事件に巻き込まれないように、気をつけることについて学ぶ。また、誘拐されそうになった場面を想定して、自分の身を守るポイントを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活での危険な状況を理解する。 ・「自分の身を守るポイント」(大きな声で助けを呼ぶ、ついて行かない、逃げる)を身につける。

Table 8 学習領域 G「環境変化への対処」の各学習ユニットの説明

	授業名	内容	重要な気づきやスキル
ステップ 1	G1 家族のサポート 「おうちの人とお話ししよう」	保育所・幼稚園で体験したことを、家族や保護者に話すことの良さ(メリット)について考え、保育所・幼稚園での出来事を家族や保護者に積極的に話そうとする意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所・幼稚園での出来事を家族や保護者に話すことの良さ(メリット)を知る。 ・保育所・幼稚園での出来事を家族や保護者に話そうとする意欲を高める。
ステップ 2	G2 進級 「新しい友だち」	進級による環境変化に伴う様々な感情(期待や不安)を理解する。そして、新しい友だちとの交流を通して仲良くなる。	<ul style="list-style-type: none"> ・進級による環境変化に伴う様々な感情を理解する。 ・進級によって出会った新しい友だちと仲良くなる。

Table 9 学習領域 H「ボランティア」の各学習ユニットの説明

	授業名	内容	重要な気づきやスキル
ステップ1	H1 家でのお手伝い 「私のお手伝い」	料理, 洗濯, 掃除など家庭を支える仕事に気づき, 感謝の気持ちを持つ。そして, 自分にもできるお手伝いを考えて, 積極的にお手伝いをしようとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭を支える様々な仕事 (料理, 洗濯, 掃除など) があることに気づく。 ・家庭での仕事をしてきている保護者・家族に感謝の気持ちを持つ。 ・家の手伝いへの意欲を高める。
ステップ2	H2 保育所・幼稚園での手助け 「大丈夫?」	保育所・幼稚園で困っている友だちを見た時に, ちょっと声をかけたり助けたりすることで, 友人関係が良くなることを知り, 積極的に手助けしようとする意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている友だちを手助けしたり, してもらった時の感情を考える。 ・保育所・幼稚園で困っている友だちがいたら, 手助けをする意欲を高める。

Table 10 幼稚園教育要領の領域ごとの内容と SEL-8N 学習プログラムの学習領域との関連

幼稚園教育要領		SEL-8N 学習プログラムの学習領域
領域	内容	
健康	<ol style="list-style-type: none"> (1) 先生や友達と触れ合い, 安定感をもって行動する。 (2) いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 (3) 進んで戸外で遊ぶ。 (4) 様々な活動に親しみ, 楽しんで取り組む。 (5) 先生や友達と食べることを楽しむ。 (6) 健康な生活のリズムを身に付ける。 (7) 身の回りを清潔にし, 衣服の着脱, 食事, 排泄などの生活に必要な活動を自分でする。 (8) 幼稚園における生活の仕方を知り, 自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。 (9) 自分の健康に関心を持ち, 病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 (10) 危険な場所, 危険な遊び方, 災害時などの行動の仕方が分かり, 安全に気を付けて行動する。 	E 自己への気づき, ストレスマネジメント A 基本的な生活習慣 A 基本的な生活習慣 A 基本的な生活習慣, F 問題防止 A 基本的な生活習慣 A 基本的な生活習慣, F 問題防止 F 問題防止
人間関係	<ol style="list-style-type: none"> (1) 先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 (2) 自分で考え, 自分で行動する。 (3) 自分でできることは自分でする。 (4) いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 (5) 友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。 (6) 自分の思ったことを相手に伝え, 相手の思っていることに気付く。 (7) 友達のよさに気付く, 一緒に活動する楽しさを味わう。 (8) 友達と楽しく活動する中で, 共通の目的を見だし, 工夫したり, 協力したりなどする。 (9) よいことや悪いことがあることに気付く, 考えながら行動する。 (10) 友達とのかかわりを深め, 思いやりをもつ。 (11) 友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付く, 守ろうとする。 (12) 共同の道具や用具を大切に, みんなで使う。 (13) 高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。 	D 対人関係 D 対人関係 B 他者への気づき, C 伝える, D 対人関係 B 他者への気づき, C 伝える B 他者への気づき, D 対人関係 D 対人関係 A 基本的な生活習慣 A 基本的な生活習慣 H ボランティア
環境	<ol style="list-style-type: none"> (1) 自然に触れて生活し, その大きさ, 美しさ, 不思議さなどに気付く。 (2) 生活の中で, 様々な物に触れ, その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 (3) 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 (4) 自然などの身近な事象に関心を持ち, 取り入れて遊ぶ。 (5) 身近な動植物に親しみをもって接し, 生命の尊さに気付く, いたわったり, 大切にしたりする。 (6) 身近な物を大切にする。 (7) 身近な物や遊具に興味をもってかかわり, 考えたり, 試したりして工夫して遊ぶ。 (8) 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 (9) 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。 (10) 生活に関係の深い情報や施設などに関心をもつ。 (11) 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。 	A 基本的な生活習慣
言葉	<ol style="list-style-type: none"> (1) 先生や友達の言葉や話に興味や関心を持ち, 親しみをもって聞いたり, 話したりする。 (2) したり, 見たり, 聞いたり, 感じたり, 考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。 (3) したいこと, してほしいことを言葉で表現したり, 分からないことを尋ねたりする。 (4) 人の話を注意して聞き, 相手に分かるように話す。 (5) 生活の中で必要な言葉が分かり, 使う。 (6) 親しみをもって日常のあいさつをする。 (7) 生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。 (8) いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 (9) 絵本や物語などに親しみ, 興味をもって聞き, 想像をする楽しさを味わう。 (10) 日常生活の中で, 文字などで伝える楽しさを味わう。 	B 聞く, C 伝える C 伝える C 伝える B 聞く, C 伝える C 伝える A 基本的な生活習慣 C 伝える C 伝える B 聞く C 伝える
表現	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生活の中で様々な音, 色, 形, 手触り, 動きなどに気付いたり, 感じたりするなどして楽しむ。 (2) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ, イメージを豊かにする。 (3) 様々な出来事の中で, 感動したことを伝え合う楽しさを味わう。 (4) 感じたこと, 考えたことなどを音や動きなどで表現したり, 自由にかいたり, つくったりなどする。 (5) いろいろな素材に親しみ, 工夫して遊ぶ。 (6) 音楽に親しみ, 歌を歌ったり, 簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。 (7) かいたり, つくったりすることを楽しみ, 遊びに使ったり, 飾ったりなどする。 (8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり, 演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。 	E 自己への気づき, ストレスマネジメント E 自己への気づき, ストレスマネジメント C 伝える C 伝える C 伝える

